

テクノオーシャン・ユース 2008 が開催されました

11月16日(日)、テクノオーシャン・ユース2008が開催されました。本年は「海の生物との出会い」をテーマに、須磨海浜水族園のバックヤードツアーと神戸空港島西緑地でのウミガメ・エコツアーリズムへの参加をしました。中学生を対象に募集をし、応募多数のため抽選で選ばれた参加者は、海の生物と触れる一日を過ごし、海洋環境保全の大切さ、地球上で多くの生物と共生する人間の存在を再認識していました。体験企画と併せて、須磨海浜水族園学芸員の安井幸男氏に「水族園は何を発信するのか」をテーマにご講演をいただいたほか、日本ウミガメ協議会会長・亀崎直樹氏にウミガメの生態と保護活動に関する講演、大阪府立大学・大塚耕司先生による神戸空港島人工池の概要説明をしていただき、科学技術の進歩と重要性を知り、将来に夢を膨らませていました。



水族園の飼育・管理施設の説明を受ける



捕獲された人工池で保護中のウミガメ



重いウミガメを担架に乗せて協力して運ぶ



甲羅の清掃を手伝う参加者

テクノオーシャン・ユース 2008 地球深部探査船「ちきゅう」特別見学会 実施報告

テクノオーシャン・ネットワーク事務局

2009年2月14日(土)13時半から16時半まで、(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)、神戸市みなと総局、(財)神戸国際観光コンベンション協会、(社)神戸港振興協会と共催で、今年度2回目のテクノオーシャン・ユース2008を六甲アイランド(神戸港)停泊中の地球深部探査船「ちきゅう」内において開催しました。

これは、「ちきゅう」の神戸港への寄港に合わせ、同日の記念講演会や2月15日(日)の一般公開と共に、神戸市民の「ちきゅう」「海洋の科学技術」に対する理解の拡大、また来る2010年10月開催の「Techno-Ocean 2010」イベントとして企画されたものです。

神戸市立の全中学校・高校・高専に案内したところ、40名を超える申込があり(当日参加は40名。うち中学生は23校から31名、高校生は6校から9名)、11月に開催した第1回に引き続き、多数の若者が参加する催しとなりました。

参加者はまず船内カンファレンスルームに移動、平朝彦JAMSTEC理事・地球深部探査センター長の挨拶の後、同センターの倉本真一氏からの丁寧な説明を受け、「ちきゅう」の構造や掘削方法を学びました。その後3班に分かれて船内見学に出発、船橋、ヘリデッキ、コアカッティングエリア、操舵室、ドリルフロア、研究区画、ライザーパイプ、機関室など一般見学では見られない場所を含めて見学と詳しい説明を受けました。

船内見学終了後に再度カンファレンスルームに集合、質疑応答で見学中に生まれた疑問を確認して解散しました。

終了後に回収したアンケートを見ると「地球の深部についての説明がわかりやすかった」「海底や掘削のしくみがよくわかった」「想像を絶するような装備」など高い評価が多く、海に関心のある学生にいい学習の機会となったようで主催した我々としてもうれしく思います。

また「また機会があれば来たい」「最初は、高校の勉強になるなあ、としか考えてなかったけど、すごく感激することができました」「一度は探査に参加してみたい」「海洋の探査に興味を持てました」など今後の発展が期待できる感想も多く、神戸の若者のこれからの成長に期待したいと思います。

★「ちきゅう」関連イベント結果報告

- ① 特別見学会(テクノオーシャン・ユース 2008)
2月14日(土)
会場：六甲アイランド 参加：40名
- ② 寄港記念講演会
2月14日(土)
会場：神戸海洋博物館 参加：254名
- ③ 一般公開
2月15日(日)
会場：六甲アイランド 参加：9,312名



JAMSTEC 地球深部探査センター 倉本氏による講演



「ちきゅう」船内の見学